

保育指導案

草津市立老上こども園

木戸 香里

1. 活動名

ポップコーンパーティーをしよう！ 5歳児12月

2. 活動の目標

- トウモロコシの収穫後、皮や畑の片付けをすることで土の再生について考える
(知識および技能の基礎)
- トウモロコシの食べられる部分、捨ててしまう部分から資源の活かし方や無駄にしない工夫を考える
(知識および技能の基礎)
- 食事として提供されるまでの過程を知ったり、たくさんの人の手が加わったりしていることを知る。
(知識および技能の基礎)(思考力・判断力・表現力等の基礎)
- 自分の感じたことや考えたことを、友だちや保育者に伝える (思考力・判断力・表現力の基礎)
- 友だちと協力してポップコーンパーティーをする (学びに向かう力・人間性等)
- 自分が収穫したものを食べる喜びを感じる (学びに向かう力・人間性等)

3. 活動によせて

(1) 教材観

年間を通して季節の花や野菜の栽培活動を行っている。栽培に使う土は、給食の廃棄食材で作った堆肥を使用し、子どもたちと一緒に再生している。成長や季節の移り変わりに気づけるようにそれぞれの保育室前に栽培物を置くことで、積極的に世話をしたり、遊びの中に取り入れたりする姿がある。中でも、トウモロコシは子どもたちの背丈より大きくなるため成長が分かりやすく、背比べをするなど親しみをもって世話をする姿が見られた。トウモロコシは子どもたちの身近な食材だが、茹でて食することができる甘味種と、熱が入ると弾けてポップコーンになる爆裂種という種類があるということを知らない子どもは多い。ポップコーンは食べたことはあるが、弾ける瞬間の様子や音などを見聞きした子どもは少ないため、実際に調理することで自分たちが栽培収穫した食材が美味しく食べられるものになることや、様々な品種や食べ方があることを知ることができる教材であると考えられる。

(2) 子ども観

園児は、これまでの経験から栽培活動に意欲的に取り組んでいる。毎朝成長を観察したり、水やりをしたりしながら収穫を心待ちにする姿が見られていた。自分たちが栽培・収穫したものを使い会食する喜びや、他学年の友だちにふるまう喜びを感じることができ、クラスを超えてのコミュニケーションが深まると考えられる。

(3) 指導観

本活動にあたって、まずは自分たちが栽培・収穫したものを食べる喜びを存分に感じられるようにする。そのことを通して、自然の恵みを感じ、収穫した種が次年度の栽培に使えること、土は肥料を施すと再び使うことができるなど、自然の繋がりを意識できるようにしたい。

また、この会食を通して他学年の子どもたちを招待したり、自分たちが作ったものをふるまったりすることで他者を思いやる心や、自分の思いを伝えたり相手の思いに気づいたりしながら活動をすることで、コミュニケーション力を育てていきたい。

4. ESD との関連

○本活動で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

多様性

- ・一つの食材から、様々な食べ方（活用方法）があることを知る
- ・収穫、食するというだけでなく、会食を通して異年齢交流ができる
- ・世界各地でトウモロコシが主食となっていることを知り、食文化の多様性を知る

相互性

- ・廃棄になるはずだったもの（給食）が肥料になる事で、次の栽培活動に活かされる

○本活動で育てたい ESD の資質・能力

多面的・総合的に考える力

- ・トウモロコシや土は、様々な活用方法・再利用方法があることを知る
- ・世界には、様々な食材や調理法があることに気づき、世界の食文化を知る

他者と協力する態度

- ・自分の背丈よりも大きいトウモロコシを友だちと力を合わせて収穫したり、土を運んだりする
- ・トウモロコシパーティーに必要なものを友だちと相談したり、用意したりする

○ESD で育てたい価値観の基礎

自然環境、生態系の保全を重視する 世代間の公正

- ・自分たちで栽培、収穫したトウモロコシでポップコーンパーティーをすることに期待する
- ・収穫が終わった後の土を再利用するために整理することで、次の野菜の栽培に期待をもつ
- ・収穫が終わった後の畑を整理することで、次の人が使いやすいようにする

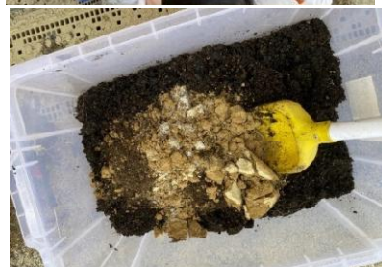
○達成に貢献できる SDGs

- ・ 15 陸の豊かさを守ろう
- ・ 12 作る責任 つかう責任

5. 保育構想図（活動に至るまでの遊びの流れ）

土を再生させる（R6 年度）

肥料を入れ、土の再生に必要なものを知る



少し先のことに見通しをもち、期待を寄せられる力



栽培活動を行う (R7 5月)



自分で考え、意欲的に活動する力



様々な種類の栽培物に触れ、自然の恵みを感じ親しみをもつ。



世話をしたり、遊びに取り入れたりする (6月)



自然とのかかわりを楽しみ、遊びに取り入れて工夫する力



カラス対策の仕掛けを作り野菜を守ったり、間引いた葉や花でままごとをしたりする。



栽培物を収穫する (6~7月)

友だちとイメージ共有したり、考えを伝え合ったりする力



収穫したものの数を数えたり、色や大きさの違いに気づいたりする。

6. 活動の評価規準

(ア) 知識及び技能の基礎	(イ) 思考力・判断力・表現力等の基礎	(ウ) 学びに向かう力・人間性等
①残った給食が肥料となり、土が再生することを知っている。 ②食材は様々な品種や食べ方があることを知っている。	①トウモロコシの片付けを通して、気づいたことや、収穫した時の喜びを友だちや保育者に伝えようとしている。 ②収穫した後のトウモロコシの葉や茎をどうしたら役に立つのか考えようとしている。	①栽培・収穫の喜びを存分に感じながら、最後まで片付けをしている。 ②会食に必要なものや進め方を友だちと相談したり、力を合わせたりして準備している。

7. 保育指導計画

(1) 活動名 「ポップコーンパーティーをしよう」

(2) ねらい ・栽培・収穫したものを食べる喜びを感じる。

・一つの食材に様々な調理法や品種があることを知る

内 容 ・ポップコーンを作って食べる。

時間	子どもの姿	援助と環境構成	評価
(前日)	○乾燥させたトウモロコシの実を取る。 ○実を取った後の葉をハサミで細かく切り、コンポストに入れる。	○取った実は種となり、次年度に植えたらまた実をつけるということを知らせ、命の繋がりを感じられるように知らせる。 ○実を取った後の芯や葉が畑の肥料になり、土に還ることを知らせる。	ア② ア① イ①② ウ①
9:30	○エプロン・三角巾を着け、手洗いをする。	○ポップコーンの変化のイメージがもてるように、調理工程を絵表示で用意しておく。	
9:45	○前日に取ったポップコーンの実と油をホットプレートに入れる。	○ポップコーンが弾ける様子が見えるように、透明の蓋があるホットプレートを用意する。	ア② ウ②
10:00	○匂い、弾ける音、形の変化など、諸感覚を通してポップコーンの様子を見る。 ○出来上がったポップコーンをおたまで紙コップに分け入れていく。 ○みんなで一緒にポップコーンを食べる。	○匂いや音、弾ける様子に気づけるように必要に応じて変化を知らせる。 ○子どもたちがポップコーンを分けていく姿を見守る。 ○保育者も一緒にポップコーンを食べ、喜びを子どもたちと共有する。	ウ②
(翌日)	○他学年の友だちにも食べさせてあげたいという思いをもち、用意する。	○子どもたちが主体となり活動を進められるように見守る。	ウ②

8. 成果と課題

成果

- ・とうもろこしは、子どもたちの身長より遥かに大きくなるため数人の友だちと協力して収穫しないとできないため、自然と友だちと力を合わせる姿が見られた。また、収穫するまでに時間と労力がかかったことで、達成感を感じる姿が見られた。「葉っぱがめっちゃこそばい！（かゆい）」「一緒に引っ張ってみよう！そしたら抜けるかもしれん！」「一番上が見えへんなあ。」と、収穫を通して“とうもろこし”に親しみと、収穫の喜びを感じる姿が見られた。また、栽培後は畑に牛糞や給食堆肥を撒き、スコップで混ぜることで、土が再生され次の活動に繋がっていくということを知ることができた。「（牛糞のにおいをかいで）めっちゃくさい！」「これが栄養になるんやあ…」と、知識として知り、体感することができた。
- ・栽培・収穫・下準備をすることで、“食事”として自分たちの口に入るまでには、たくさんの人の手が加わっているということを知ることができた。また、それらのことを知ることで、「他にはどんな食べ方があるんやろう？」「どうして弾けるんやろう？」といった疑問がうまれた。
- ・会食では、作る過程を見ている中で「トランポリンみたい」「めっちゃいい匂いがしてきた」「ポップコーンの匂じゃないみたい」と、感じたことを話しながら、食べる喜びを存分に感じる事ができた。活動後、縦割りペアクラスの友だちにも食べさせてあげたいという気持ちが芽生え、自分たちで計画し翌日に招待する姿があった。“自分たちが作ったもの”をふるまうことで、自信に満ちた表情があった。
- ・とうもろこしパーティーでは、絵表示を作成したことで、“とうもろこし”について親しみを深めることができた。世界で食べられている料理を写真で見ることで、日本の“米”のように主食として食べられていることを知ったり、「食べてみたい」「おいしそう」と興味をもったりする姿が見られた。また、自分たちの身近な食べ物になっていることを知り、「ラムネ食べたことある」「コーンフレーク美味しいよな」と、一つの食材から様々な食べ方ができること、様々な形に変わっていくことに発見や驚きがうまれた。翌日以降も絵表示を見て活動を振り返る姿が見られた。
- ・「めっちゃ美味しい」「もっとおかわりするわ」「お店のよりも美味しい」と、食べる喜びを感じたことで、「また育てたい」という次年度への栽培の意欲に繋がった。
- ・この活動を進めるにあたり、園の食育担当（5歳児担任）と一緒に進めていく中で、事前の打ち合わせをすると、食育担当者も「とうもろこし」について自主的に調べ表示を作成してくれていた。私が知らなかったこともたくさん記載されており、私を含め、職員間の学び、新しい知識として学ぶ機会になった。“対話”をしながら保育をしていく大切さを改めて感じた。

課題

- ・担任をしていない者が計画をし、活動を進めていくため、子どもたちに経験させたい事などを記載した指導案を提示しながら密に話をしても、クラス担任が“お客さん”のような参加の仕方になってしまう。
- ・フリー的存在の私がこういった活動を取り入れるため園全体（各クラス）にESDの視点が浸透しにくい。（なぜ栽培活動を行っているのか、なぜこのような絵表示を用いて会食を行っているのか。子どもが疑問に感じたことをクラスに戻った後に追求できる環境が用意できていない。等。）そのためには、十分な対話が必要であると感じる。

目指す子ども像

よく考え自分でしようとする子ども

友だちを大切に力を合わせて仲良く遊ぶ子ども

何事も最後までやりぬく子ども

学年のめざす姿

- ・友だちと力を合わせて遊ぶことを楽しむ。
- ・友だちとともに、より遊びを楽しくしようとする。
- ・相手の気持ちを受け入れながら協力して共通のイメージをもって遊びをすすめる。

学年のESDに関連するねらい

- ・栽培収穫を喜んで行い、食べることを喜ぶ。
- ・土や収穫したものの再生方法を考える。
- ・一つの食材には、様々な食べ方や調理方法があることを知る。

ポップコーンパーティーをしよう！（12月）

- トウモロコシの収穫後、皮や畑の片付けをすることで土の再生について考える
(知識および技能の基礎)
- トウモロコシの食べられる部分、捨ててしまう部分から資源の活かし方や無駄にしない工夫を考える
(知識および技能の基礎)
- 食事として提供されるまでの過程を知ったり、たくさんの人の手が加わったりしていることを知る。
(知識および技能の基礎) (思考力・判断力・表現力等の基礎)
- 自分の感じたことや考えたことを、友だちや保育者に伝える (思考力・判断力・表現力の基礎)
- 友だちと協力してポップコーンパーティーをする (学びに向かう力・人間性等)
- 自分が収穫したものを食べる喜びを感じる (学びに向かう力・人間性等)

ESDで重視する能力・態度が揺さぶられる子どもの姿(幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿)

○多面的・総合的に考える力

- ・トウモロコシや土は、様々な活用方法・再利用方法があることを知る (思考力の芽生え)
- ・世界には、様々な食材や調理法があることに気づき、世界の食文化を知る
(豊かな感性と表現、社会生活との関り)

○コミュニケーションを行う力

- ・学級だけではなく、他学年の友だちを招待し、ポップコーンパーティーをすることを楽しむ
(協同性、豊かな感性と表現)

○他者と協力する態度

- ・自分の背丈よりも大きいトウモロコシを友だちと力を合わせて収穫したり、土を運んだりする
(協同性、自然との関り生命尊重)
- ・トウモロコシパーティーに必要なものを友だちと相談したり、用意したりする
(協同性、言葉による伝え合い)

○進んで参加する態度

- ・ポップコーンパーティーに喜んで参加する。
(協同性、社会生活との関り)

ねらい（12月）

- ・友だちと一緒に目的をもって遊びをすすめようとする。
- ・遊びの中で、自分の力を発揮し、満足感や自信をもって活動する。